

# 都の風

MIYAKO NO KAZE



2014年 No.37

- 発行／都会メディカルケアシステム 渡辺 康介
- 編集／地域広報委員会 京都市北区大宮南田尻町59番地
- ホームページ／<http://www.miyakokai.or.jp/>
- お問い合わせ／info@miyakokai.or.jp

理念

- 患者様・ご利用者様の立場にたったキュア(医療)・ケア(介護)を提供いたします
- 医療・介護・福祉を通して地域、社会に貢献いたします
- 職員の質の向上をはかります



松永ミツ様 99歳

生年月日／大正3年10月29日生まれ 左京区在住



渡辺西賀茂診療所 皮膚科

医師 野崎 健一

新年明けまして、と言つたと思つたらもう4月、ようやく過ごしやすい季節になつてきましたが皆様如何お過ごしでしょうか。昨夏は酷暑、今冬は厳冬と両極端で、日本は亜熱帯化しているのか、逆に亜寒帯化しているのか訳わかりませんね。さて、話のネタに困り思案していたところ、先号の渡辺康介理事長の記事が目に留まり、これ幸いと私も10年来愛用していた変わり湯呑みを紹介したいと思います。山本五十六元帥海軍大将の言葉が彫られた湯呑みです。男の修行、いい響きですね。これをじっくり読むと何か熱いものが込み上げてきます。やはり、人生とは魂の修行なのでしょう。楽しい事よりもつらい事の方が多いのも、これを理由とすると納得出来ますね。

死の直前まで自分らしく、そして一生懸命に生きたいものです。何か熱く語つてしましましたが、出来れば同じ人生なら楽しみたいものですね。



No.37

## 都の風通信

### 研修報告

#### エンディングノートと最近のお葬式事情 全体研修

渡辺西賀茂診療所 神田 正美

平成25年12月4日公益社二木達浩氏による、終活セミナーに参加しました。

実際のエンディングノートを配布され、書く目的、必要性を、ご自身の体験談を通して解りやすくお話し頂きました。エンディングノートは、自身の過去を振り返り、今を想い未来を想像する意味があり、自分の望む最期の希望、葬儀の写真や、知りせてほしい人などを記録するノートです。最近は核家族化に伴い、終末期になつて家族が代理

からることを、家族と気軽に語れるきっかけになりました。  
エンディングノートを書くこと、思い出やこれまでのことを、家族と一緒に語るきっかけになります。

からることを、家族と一緒に語るきっかけになります。

#### 自立支援を目的とした介助法について びあ研修会

医療法人社団都會 本部 成田 大恵

平成26年2月8日、初心者・中堅の介護職員を主に対象とした自立支援を目的とした介助法を学ぶための、びあ研修会が行われ参加致しました。講師に、西賀茂テイサービスセンターの理学療法士・布川雄一郎氏をはじめ、西賀茂診療所・訪問リハビリを担当する数名の理学療法士を迎えて行われました。

各参加者は、自立支援を目的とした介助法のポイントの説明を受けた上で、グループ毎に理学療法士を1名入れて分かれ、要介護者と介護職員の立場になつて介助法(寝返り動作、ベッド上の移動、起き上がり動作、椅子からの立ち上がり動作、車椅子からの移乗動作、等)の実践を行いました。介助を行うまでのポイントとして、要介護者の動きを引き出すこと、声掛けを行い要介護者の出来ること、出来ないこと知り、自然な動きを基本として介助をすることの大切さを学びました。

今回の研修会では新人・中堅職員だけではなく、熟達した介護職員も共に日常の業務を振り返りながら介助法のポイントを学び、再確認できる貴重な機会になつたのではないかと思いました。

今後も定期的に研修会を開催し、職員研修会等も計画しております。

一人一人の知識、技術を向上することで患者様、利用者様へ少しでも質の高いサービスが提供できれば、と考えております。また、皆様からも、こんな研修を受けたは?等のご意見がございましたら、是非ともお聞かせ下さい。



#### 教育委員会について

以前に紹介致しました「地域広報委員会」に引き続き、今回は「教育委員会」の活動について紹介致します。

「教育委員会」は、職員のスキルアップとサービスの質の向上を目的に、おおむね2カ月に1回、法人職員全員参加型の研修会の企画、運営を行つております。

例えば今年度は、法人外部の講師をお招きして「成年後見制度について」「終活・普通救命講習」、法人内部の医師による「心疾患について」の講演、職員による演題発表、外部研修参加後の報告会等を開催しております。来年度には認知症をテーマにしたものや介護保険についての研修会等も計画しております。

今後も定期的に研修会を開催し、職員一人一人の知識、技術を向上することで患者様、利用者様へ少しでも質の高いサービスが提供できれば、と考えております。また、皆様からも、こんな研修を受けたは?等のご意見がございましたら、是非ともお聞かせ下さい。



## 「在宅生活をささえるための情報共有として わたしたちが取り組んでいる3つのこと」

皆様の在宅生活では、普段、ケアマネージャーをはじめ、ヘルパー、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、医師が定期的に自宅へお伺いしているかと思います。普段の関わりの中で気づいたことなどを、職種の異なるスタッフどうしあり情報交換し共有する、この過程は医療・介護サービスの質を高める上で非常に重要なものです。

しかし、この「情報の共有」、実は意外と難しいのです。

その理由は、

- 1) 関わるスタッフが多い(多職種が関わっている)
- 2) 場所がさまざま  
(在宅以外にもデイサービスやショートステイ等、また、スタッフも移動している)
- 3) 利用者さんの情報が分散されている(カルテ、看護記録、介護記録、連絡ノートなど)  
といったことが挙げられます。



これらを解決し、利用者さん一人ひとりの情報を多職種で共有するためには、我々は日頃より、主に3つの取組みを実践しております。



### 1. 多職種が参加する朝のミーティング

毎朝、短時間のミーティングを行っています。ミーティングには医師、看護師、ケアマネジャー、各介護職が一同に会し、訪問時やサービス利用時の様子などの共有に務めています。文字だけでは伝わらない、伝える者の表情が見える共有の場であり、我々が最も重要と位置付けている情報共有方法です。

### 2. 利用者さんご家庭と介護・医療をつなぐ連絡ノート

デイサービスでの様子のお知らせやヘルパーがサービスを提供した際の連絡事項を、主にご家庭にお知らせするための連絡ノート。ご家庭とスタッフとの情報共有はもちろん、ノートの情報は訪問診療や訪問看護の際にも普段のご様子を把握するのに役立っております。



### 3. ミーティングや個別のやりとりの間を埋める補助手段

決まった時間内でのミーティングでは、分散された情報や1日の中で利用者さんの様子が変化した場合の情報を、多職種で同時に共有しきれないこともあります。現在我々は、これを埋める補助手段として、電子版の「連絡ノート」のような仕組みを利用した情報共有にも取り組んでおります。これは、セキュリティのかかったインターネットグループウェア(部外者は侵入できない)を利用し、各スタッフが現場で得た情報を、みんなで同時に共有できるシステムです。

さらに将来的には、診療所、訪問看護で電子カルテを導入し、情報管理と情報共有を安全に、正確に、効率よくしていくことを計画しております。

このような円滑な情報共有の実践により、医療・介護サービスの質のさらなる向上へとつなげ、利用者の皆様に還元できるよう取り組んでまいります。

(小原章央)

### ほっこり庵クリスマス会

12月15日にクリスマス会を開催しました。よし笛とハーモニカ演奏・フラダンスなど、利用者様、家族様、ボランティアの方々と一緒に、楽しいクリスマス会となりました。

プレゼントどうぞ!!

入居者さんご家族さんと  
そのご友人による演奏♪

かわいいトナカイさん  
ありがとう☆彡

ボランティアさんによる  
フラダンス♪(^▽^)♪



一乗寺  
ほっこり庵

一乗寺ほっこり庵では、毎年恒例の豆まきを2月3日に行いました。ご利用者様も鬼が近づいてくると「鬼は外～!」と大きな声で豆まきを楽しまれていました。

